

第5回西都児湯医療センター施設整備基本構想懇話会（会議要録）

- 日 時 平成 29 年 2 月 20 日（月）午後 7 時 00 分～午後 8 時 50 分
- 場 所 西都市役所議会委員会室
- 出席者 落合秀信委員、黒木正善委員、田爪淑子委員、橋口 透委員、
飯牟礼純比古委員、樫山健一委員、倉岡高喜委員、老岐武利委員、
緒方久己委員、山崎幸雄委員、井上ヒロ子委員、牧 久夫委員、
伊藤稔郎委員、安藤正治委員、那須壽好委員、井上正廣委員、
川崎貞生委員、日高雅信委員、杉尾砂子委員、齋藤美紀子委員、
佐々木玄子委員（欠席委員：4名）

【西都市西児湯医師会】

松本英裕会長、黒木重晶副会長、鶴田明土副会長

【市役所】

津曲晋也地域医療対策室長、佐藤武志地域医療対策室室長補佐、
森田 裕地域医療対策室主任主事

【医療センター】

長田直人理事長、安藤敏和事務局長、八木 毅事務局次長

【有限責任監査法人トーマツ】

小石原聡子マネージャー

- 傍聴者 3名

■会議経過

- 1 開会
 - 2 座長あいさつ
 - 3 議事
- (1) 第4回会議録の確認について
◎資料1～10ページ

○質疑等（要点筆記）

発言者	内 容
座長	「第4回会議録の確認について」事務局から説明があったが、意見があればお願いしたい。
	—
座長	特に意見がないとのことなので、次の議事に進ませてもらいたい。

(2) 西都児湯医療センター施設整備基本構想（素案）について

◎別添

○質疑等（要点筆記）

発言者	内 容
座長	事務局から説明があったが、意見、質問があればお願いしたい。
委員	懇話会の内容が前に進んでも、市長の考えと異なれば無駄になると考えるが、この点について伺いたい。
委員	<p>押川市長の選挙公約の中に「新病院を造ります」というのがあるので、市長も当然ながら新病院を造ることについては考えていると思う。ただし、どのような新病院を造るといった具体的な内容については伺っていないので分からないが、新病院建設についてはほぼ間違いないと思う。</p> <p>基本構想が3月には決定するということになると思うが、次の段階である基本計画が、平成29年度の予算として計上されるかどうかという点が一番のポイントになる。基本計画は、当然、基本構想が土台となって成り立つものと思っている。</p>
座長	<p>今の話であれば、新しい市長さんが公約に掲げているということで、我々としてはこんな病院を造ってほしいというような意見を挙げていくことが懇話会の趣旨だと考えている。具体的な内容については、この会を離れて、基本計画で決定していくことになるので、その際にご意見をいただきたいと思う。</p> <p>他に意見はないか。医療センターから補足があればお願いしたい。</p>
センター	地域医療対策室が中心となって、このような懇話会を計画したので、前市長がものすごく音頭を取っていたとは理解していない。今、座長が言ったように、懇話会においてどんな病院を建てるか、どんなことが困難になるのか、どういう事をすれば良いのかなど、市民のレベルで意見をだすということが非常に大事だと思っている。そういう視点でまとめて、市長に提案した方が良いと思っている。また、そういうふうにしていきたい。
座長	他に意見があればお願いしたい。
委員	聞いた話では、新市長は一次救急の24時間体制を目指しているということだが、その点について伺いたい。
センター	難しい問題である。全国で実際に24時間（の一次救急を）行ってい

一	<p>るところはない。午後7時から（翌朝）午前7時までの12時間の救急医療を行っているところがあっても、24時間体制というのは、宮崎県でも救命救急センターぐらいではないか。それも、三次救急のみ。</p> <p>二次救急を主体として、入院患者が増えるこれからの世の中に対応していく、特に後期高齢者に対して医療が提供できるようにしていくことはできる。</p> <p>（一次救急24時間体制を行おうとすれば）40歳代の若い医者15人が揃えば、内科と外科でぎりぎりではあるが、それぞれ一人ずつ当直するという形であれば可能かもしれない。その為には、最低でも14人から15人の40歳代の医師が集まらないと無理。</p> <p>しかし、今のマンパワーで出来る仕事というのは、午後7時から午後11時までの時間帯で、歩いて来られる患者にも対応すること。その後は、翌朝から働くわけだから、救急車搬送の人、または電話で問い合わせがあって、特に困っている人に対しては、午前7時まで行っている。ここが限界。今の常勤医師が倒れたりすれば、後戻りしなければいけない。</p> <p>高千穂町立病院に内科医が2人いたが、1人の医者が倒れた。それから1人の医者で対応しているが、内科全ての領域を補えなかった。それだけ一人ひとりがかなりの位置を占めている。また、へき地に行けば行くほど、医者は1人か、2人である。それ以上に医者を増やしたら、医者に給料を支払えない。それが現状。マンパワーと言いながらも行政がどのように絡んでいくのか、むやみやたらに医者を増やせば良いというものではない。</p>
座長	<p>センターから説明がありました。私の記憶によりますと前々回の懇話会においても同様の話になったと思う。現状では難しいが、将来的に地域の医療機関と連携しながら努力していくという話であったが、今も同じであるということによろしいか。</p>
センター	<p>はい。</p>
委員	<p>医療センターは、医師不足のままで運営してきた。今、5名の医師が来られている。今の状態では、10名（の医師）を確保するというのは不可能ではないか。結局、新しい病院ありきで10名（の医師）を確保できるという意味でないか。</p>
センタ	<p>マンパワーだけではなく、病院を造るということは、いろんな意味</p>

一	<p>が含まれているのではないかと。今の現状で病院を運営していても、医師が増えるという可能性はゼロ。ただし、災害拠点病院としても位置づけをして、新しい病院を造れば2～3%かも分からないが、(医師確保の)可能性はゼロではない。(医療センターには)西都市だけではなく、児湯郡からも昨年1年間で450台の救急車が来ている。西都市内の救急搬送台数とほぼ一緒である。患者数も増えてきているので、児湯地区を含めて考えながら医療を提供していきたい。その為には、病院を造るしかない。</p>
委員	<p>病院を造ったはいいが、医師が集まらず、困ったということになりかねない。西都児湯地域には、医師会があるのだから、当直医を交代で行うなど、医師会の協力を仰がない限りは不可能でしょ。</p>
センター	<p>初めて医師会の先生方が来られた。夜間当直については、私ではなくて、医師会の先生達の意見を聞いた方が良いと思う。</p>
医師会	<p>以前の医師会病院の時は、当然ながら医師会員が協力して、また大学にも協力を仰いで午前7時までの当直を行っていた。現状としては、大学の先生方に当直を行っていただいているが、大学の先生方の事を考えて、午後7時から午後11まで(の一次救急対応を)行っている。</p> <p>先ほどの話で40歳代の医師でなければという話があったが、医師会には40歳代がほとんどいないというのが現状。私も、失礼ながら要請があれば当直の協力をするつもりでいる。</p> <p>結局のところ、魅力ある病院を造って、大学からの協力を仰がない限りは一次救急も含めた当直体制を築くことは無理だと思う。先日、市長と医療センターと医師会とで話をさせていただいたが、今後は三者が一緒になって大学に対して医師の派遣の要請を行いたい。前は小児科の話もあったが、とにかく続けて、交渉していきたいと考えている。</p>
委員	<p>医師会と医療センターの話を伺って、これであれば良い病院ができるのではないかと考えた。医師会の協力を仰がない限り、(新病院建設は)無駄だと思う。医師が集まらない事が、一番困る。</p> <p>医療センターからのお話で、理事長を含めて15名(の医師が必要だ)と言われた。今は、5名体制で運営されている。新病院が建設されたとしても、残りの10名、それも40歳代の医師を確保することははっきり言って不可能だと思う。西都児湯医師会の協力を仰がない限りは</p>

	無理だと考えているので、その点を十分に考慮して行ってもらいたい。
座長	この素案の中にも「地域医療機関との連携強化と役割分担により地域医療の完結」とあるので、その点に絡んでくると思われる。 他に意見はないか。
委員	この素案の中に、病院を「最後の砦」と書かれている。大事なことだと思っているが、(記載されている建設場所は)「最後の砦」になるような場所ではない。もし、一ツ瀬ダムが損壊した場合、(一ツ瀬川の)堤防が決壊するでしょう。書かれている場所は、全て浸水してしまう場所である。もっと高い所に造るという構想はないのか。
座長	この件については、第4回の会議でいろいろな意見があった中で、このような場所が候補に挙がるのではないかとということで記載している。あくまでも基本構想であり、これで建設場所が決定するわけではない。事務局から補足はないか。
事務局	ありません。
座長	この件については、今、言われた意見も前回の懇話会においていただいております、前回の懇話会で了承していただいている。
委員	前回の懇話会には出席していないので分からないが、(前回の)資料を見た限りでは、第一の候補地が赤池であると書いてあるようなもの。これは、場所ありきで進められている懇話会である。今度、道の駅の予定地が(事業が白紙になって)外れた。あんな狭い土地に病院を造って何になるのか。
座長	事務局に質問だが、前回の議事録は委員にお渡しし、そのうえで意見を聞くということで説明がしてあるのか。
事務局	資料については、お渡ししている。場所ありきとのお話があったが、前回の懇話会に出席していただいた委員の方々にはご理解いただけると思うが、(前回の会議は建設場所について自由な)意見をいただく場として会議を設定させていただいた。以前、ご意見としていただいた候補地を一つの例として提示させていただいた。
委員	はっきり言って(病院を)造ることを前提にしているのではないか。全然白紙の状態、候補地を今からみんなで話し合っ決めていくべきではないか。事務局がここが良いと誘導しているのではないか。
事務局	誘導している訳ではなく、あくまでも意見の出やすい状況を造るにはどうしたら良いかという会議運営の視点から、(以前、候補地としていただいたご意見を)例として挙げさせていただいた。

委員	<p>私は、はっきり言って（この会議は）懇話会とは思っていない。この話の進め方は、新病院建設準備室と思っている。建設ありきで進められている話し合いで、市民の皆さんの意見を聞きたいという懇話会ではない。新病院を建設することを事務局が誘導しているだけと思っている。</p>
座長	<p>これまで4回にわたる懇話会でいろいろな意見がだされたが、今の意見に対しても意見等があればお願いしたい。</p>
委員	<p>昭和55年に今の前身となる救急病院を医師会が30年以上にわたって運営をしてこられたが、その中でいろいろな変遷があり、非常に危機的な状況というのが何回かあった。医師会が運営されていた時代も、平成16年の新臨床研修医制度の導入があり、それ以降には内科医が引き上げられ、赤字が非常に増え、危機を迎えた。医師会の先生方も、自分の病院を経営しながら、この救急病院を運営するという非常に大変な思いをされた。</p> <p>また、行政としても十分なバックアップ体制ができていなかったということも事実だと思う。医師会の方々も高齢化を理由に（救急病院運営から）撤退され、その後は民間の医療法人が引き継いだ経緯があるが、これも上手くいかず、救急医療を守る為には医師の確保が大事だということで、何度も大学にお願いに伺ったことがある。大学側からは、公的な病院にすること、それから医師会とも円満に協力するようとの指導があり、公的病院を目指すことになった。やはり赤字体質の病院では、医師を確保しようと思ってもできない。だから、公的病院にすることで、行政がしっかりとバックアップするという体制を築くことから始めた。これが第一段階。</p> <p>今は、（常勤医師）5人体制での医療提供体制ができた。しかし、これまでの懇話会において、いろいろな現状についての説明を受け、課題を見た時に、このままでは今よりも発展する見込みがないだろうということで、今後どうしたら良いかということを考えれば、どうしても新しい病院を造って、設備の更新を行い、若い医師を確保することで、今後も救急医療提供体制を維持しようとしている。</p> <p>今のままでは救急病院が潰れてしまうというところから（議論が）始まっている訳であり、最初から行政が作ったとか、そういうことではなくて、必要性にかられて始まった会議であり、段階的に作り上げていくなかの過程だというふうに思うので、そういう面で私は理解し</p>

	たいと思う。
座長	医療センター側から何か意見はないか。
センター	私は、(新しい病院が) 必要だと思って、このような場がもたれたと思っている。最初から (新しい病院が) 必要でないと言われるなら、造らなくても構わない。住民の中で、「(新しい病院は) 必要ない。負の遺産である」という方もおられましたよね。25年後には人口も相当数が減りますし。
委員	<p>私は、必要ないとは全然言っていない。(会議の) 進め方が悪いと言ったんですよ。</p> <p>私は、病院というのは必要だと思っている。すでにこの土地に (新病院の建設場所が) 決定しているような進め方をする。私は、その点がおかしいということを行った。これは、懇話会ではなくて、建設準備委員会だと。</p>
センター	私も同じ意見です。(新病院の建設場所が) どこであるかとか、誘導するものではないということは感じている。茶臼原という地域にも高い所があるし、いろいろな所を候補地として挙げていただければ良いと思います。それは、基本計画 (策定作業) の中で選定していくことになる。
委員	「最後の砦」として、生き残らないといけない施設は、市庁舎と病院だと思っている。市庁舎と病院は、ある程度の高台に造るべき。最後まで市民を守る為に、そういう施設は最後まで残るべきであり、平地に造るべきではないと思っている。
センター	<p>個人的な意見になります。先日、東日本大震災で、石巻赤十字病院ですごい仕事をされた人の話を聞いた。最初、石巻赤十字病院の場所は、海岸線にあったらしいが、委員が言われたように、高台に免震構造で新築移転して、このことが (東日本大震災の発生に対して) 良かった。私が思うことは、あんまり奥まった所に (新病院を) 建設して、震災の被害についてはある程度は逃れられて、救急としては良いかもしれないが、私は児湯郡 (の住民) も大事だと思っているので、児湯郡と西都市の両方 (の住民) を診ることを考えれば、真ん中辺りで、高台に造った方が良いと考えている。</p> <p>しかし、一度、発災して、被災した人たちが運ばれてくることを考えれば、動脈となる道路が、ある程度交差ができる所の方がさらに良いのではないかと思う。いざ、発災して、物資を運び、人員が集まり、</p>

	<p>そして逃げる場所として、大動脈（である道路）も必要ではないかと、東日本大震災の話聞いて最近思っている。だから、悩む。</p> <p>（新病院の建設は）西都市のお金で建設しようとしていますよね。しかし、本当は児湯郡の人たちのお金も使って建設すれば良いのではないかと思っている。しかし、実際にお金を出す、出さないという行政レベルでの話が上手く進まなかったみたいだし、その中で進めるということなので、それで進めるしかないと思っている。</p> <p>やっぱり（西都市と児湯郡の）真ん中に建設して、大きな道路で繋ぐことが理想だが、現実的には無理でしょ。実際に大きな道路付近ということになればこっち（の懇話会での意見があった場所）になるのではないかと思う。実際に、宮崎市郡医師会病院も（海岸沿いから高速道路インターチェンジ付近に）移転する。それを考えると、大動脈である道路は必要だと個人的には考えている。</p>
座長	<p>最初に事務局から話があったが、基本構想素案には、今回いただいた意見も反映するという事になっているので、もし可能であれば先ほどの意見を加えることについても検討していただきたい。</p> <p>他に意見はないか。</p>
委員	<p>去年の2月に主人の96歳になる父が（体調を崩して）救急車を呼んだ。救急車はすぐに来たが、（搬送先の）病院が見つからず、1時間程度待たされた。やっと（搬送先の病院が）見つかって、それが宮崎市内の病院だった。救急車に同乗して病院に向かったが、同乗していてもものすごく遠く感じた。</p> <p>今回、懇話会の委員に選ばれ、（良い病院ができるという）希望とそういう不安を払しょくできるのではないかという思いで参加した。私は二次救急の大切さ（を十分に認識しているし）、一次救急だけをしていても意味がないと思っている。</p> <p>せっかく委員の皆さんが、忙しい中に集まってこられて、（二次救急の大切さを基本構想に）反映されないというのは、ものすごく悲しい。同じ意見を持つ人は多いと思うので、伝えてほしいと思う。</p>
座長	<p>今のご意見を基本構想素案に反映するよう事務局の方で検討してください。</p> <p>他に意見はないか。</p>
委員	<p>基本構想については、西都児湯地域の現状、救急医療の現状、そういった具体的な内容まで全部網羅したうえで、西都児湯医療センター</p>

	<p>の現状と課題という形になっている。これを見た時に、当然として新病院建設が必要という話になると思うが、そこまで具体的に説明しており、良い基本構想になっていると思っている。</p> <p>先の話になるのではないかと思うが、災害拠点病院としての位置づけであるならば、(施設の)免震構造についても検討することになる。以前に免震ゴムのデータ改ざんという問題で世間を騒がせたが、今、金属製の免震装置の開発が進んでおり、国土交通省の認可を受けている。昨年の秋ぐらいにテレビ番組で紹介されたが、熊本県内の病院が(金属製の免震装置を)採用し、着工している。また、北九州市立八幡病院も同じ金属製(の免震装置を採用予定としている)。(ゴム製と比較して)コスト的に同じか、少し安い。さらに、(装置を設置するための)使用面積が少なくて済むため、工期が短縮できる。耐用年数もゴム製であれば10年から15年程度だと思うが、金属製であれば建物とほとんど変わらない。今までは免震ゴムが一般的であったが、非常にメリットが多いと感じているので、基本計画や設計の段階で検討してもらいたい。</p>
座長	事務局の方で、基本計画の段階になれば検討していただきたい。
委員	<p>西都市民が一番考えているのは、休日や夜間に急病となった場合に、診療してくれる病院施設がほしいということだと思う。だから、病院が新しく建設されるということは良い事だと思う。夜中に(急に体調が)悪くなった時に、宮崎市(夜間急病センター)に走る患者が、1年間で450人から460人程度いるということでした。</p> <p>休日や夜間の応急診療所というのは全国にありますよね。そこがどうやって運営しているかという、医療センター(と同様の医療施設が)と医師会が協力して運営を行っている。難しい事だと思うが、本日は西都市西児湯医師会の方も来られて、専門の方と一緒に会議をしている。大変良い事だと思う。</p> <p>休日や夜間に診療を行う施設を併設してもらい、市民が安心できるようにしてもらいたい。二次救急の病院であれば、医療センターをはじめ市内の民間病院もあるわけだから、児湯郡の病院も一緒になって取り組んでもらうことが、一番良い事だと思う。</p>
座長	医療センターとしては、いかがでしょうか。
センター	お気持ちはよく理解しているつもりです。救急車搬送の対応については、夜中であっても、午前7時までは対応しています。

	<p>言われるように夜中に困って、宮崎市夜間急病センターに行っている人は毎年 450 人程度います。それは確かに、その人たちも西都市で診るようにしたい、それが念願です。そのためには、医師会の方々とも話し合い、それも西都市西児湯医師会だけでなく、児湯医師会の方々もしてもらわないといけないと思っている。医者は、そのような使命感を持って仕事をしなければいけない。</p> <p>しかし、実際に医者（などの医療従事者）が足りないのでできないということと言わないと、変に期待させてしまってもいけない。本当の事を言えば、何でもやりたいが、なかなか出来ないというのが現実。でも出来るように努力していかないといけないとは思っている。</p> <p>新しい病院ができれば、全て上手くいくとは決して思っていない。むしろ（病院建設に）5年もかかったら、（今、在籍している常勤医師は）55歳から56歳で、みんな年寄りになっている。常勤医師が、今は働けるけど、（新病院開院時に）誰もいなかったら、一体何の為に造ったのかと言われますよね。だから、人を集めないといけない。今年の5月、6月、9月に初期研修医の2年目の人がそれぞれ1か月間にわたって研修に来てくれる。また、先週、4年生になる医学部の学生が（医療センターを）訪れて、午後7時から午後11時までの診療を見学に来た。今後もそのような人たちが増えるようにしていきたい。だからと言って、彼らはここ（医療センター）には（勤務医としては）来ないんですよね。しかし、このようなことでもしなければ、大学からここ（医療センター）の存在を忘れられるから、忘れられないようにする努力はしていこうと思っている。</p> <p>私は年を取り、管理者的な仕事をしているので、実際には他の4人の医師が働いている。彼らが苦勞している姿を見ていると、倒れでもしたら終わりなので、そう簡単にいろんなことをさせられないというのが自分の立場である。「出来ません」とか、かなり強い口調で言っているけども、本当は「やりますよ」と言いたい。</p>
座長	他に意見はないか。
委員	<p>私は、初めてこのような会議に来て、良く分からないままに参加したが、懇話会ですから、アンケートを基にして、西都市の住民が、救急病院が必要だ、そのためにはどうしたら良いかという意見を汲み取っていく会議だと思っていた。アンケートもそうだが、自分としても以前に救急病院があつて良かったという経験があり、思いが強いので、</p>

	<p>本当に救急病院が必要だと、是非、救急病院を造ってほしいとの思いで参加している。</p> <p>いろいろな事があると思うが、まずは市民がどう思っているのか、どのようにしてここを変えていくのかというのを忘れないようにすることが基本だと思う。医師会や病院の先生など、その辺りも大切だとは思いますが、まずは住んでいる人たちが望んでいる、心から願っていることを形にすることが大事だというふうに今日の会議で感じている。</p>
座長	他に意見はないか。
委員	<p>もうひとつ忘れてはいけないことは財政面。確かに（新病院を）造らないといけないと思っているが、私は市庁舎の建替えに関する懇話会の委員も委嘱を受けており、市庁舎と新病院を造ることになれば、100億円を超える費用になる。西都市の市民病院を造ったとして、小林（市立病院）の建設費用が56億円と言われていましたよね。</p> <p>前市長が、（熊本地震で）崩壊した宇土市役所を見て、これはいかんと思われたんですよね。（熊本地震で）熊本市民病院の病棟が潰れましたよね。（前市長は、）これを見て病院も建て替えないといかんと思ったと思う。両方を建て替えるとなると、（事業費が）100億円を超えますよね、はっきり言って。</p> <p>西都市がこれだけの借金をして、財政的に建て替える余力があるのか。（委員の）皆さんにも考えてもらいたい。これから、市民（人口）は減っていきますよ。</p>
委員	<p>財政面については、前の会議でもありました。</p> <p>庁舎については、まだ全くの白紙の状態です。具体的な計画はできておりません。市庁舎の件も懇話会が始まったんですかね、まだその段階。</p> <p>病院については、どのくらいの事業費なのかというのは具体的には無いが、小林市立病院を例に挙げての（第3回懇話会において）説明があった。基本的には、公営企業に対する繰出基準というのが総務省で決まっており、50%の負担となっている。小林（市立病院の事業費）が、56億円と言われたが、53億円ぐらいだったと思う。その場合に半分は医療センター、病院を造る側が負担することとなる。30年間償還の据置期間5年で、最初の据置期間5年は利息だけということになる。もし病院事業債を借りることができれば、今は利息が0.1%で、市中金融に比べて非常に安くなっている。もう1点は、残りの半分以上を市が</p>

	<p>負担することになるが、建設事業費は地方交付税の対象となる。これは、36万円/㎡の限度額だったと思うが、100万円/坪の建設費に対しては、25%の地方交付税があるということなので、53億円程度で計算すれば3千万円/年程度の実質的な国からの補助があるということで、残りを考えれば市は7千万円/年から8千万円/年の負担で済む。あくまでも仮定の話。</p> <p>今、(医療センターの)一次救急の赤字分を西都市と児湯郡とで、患者数に応じて負担しているが、その額が7千万円から8千万円ぐらいなので、その額とほとんど変わらない。今まで支出している額とほとんど大差はないという事ですから、財政を心配されることは分かるが、この病院に関しては行政が直接大きな痛手を受けるということはないと考えている。</p> <p>逆に言えば、医療センターが建設費の半分を負担することになれば、それだけの医業収益を上げていかなければならないということになる。このことについては、今の65床の稼働病床を許可病床の91床にして、稼働率が85%ぐらいであれば、以前の公的な病院の例からすると黒字で維持できると思うが、さらにプラスの条件ぐらいの医業収入を上げる努力をしなければ大変だろうという気がする。この点については、診療科にもよるが、病院を専門にしているコンサルと十分な検討が必要だと思っている。</p> <p>市庁舎については分からないが、心配しているような市が新病院建設で(財政的に)大変になるということはない。これまでとあまり変わらない支出で済むだろうというふうに予想している。</p>
委員	<p>この前の説明で言うと10億円(の病院事業債)で(年間)4千万円の支払いということですよ。単純に50億円を借りたとして、年間2億円のうち、医療センターが1億円を払うという計算ですよ。そうなると、市は5千万円を払うということになる。4分の1です。年間の額が5千万円だから、30年間で15億円を払うことになる。この額が負担にならないというのはおかしい。相当な負担だと思う。15億円というのは税金です。自分の金じゃない。</p>
委員	<p>一次救急というのは、行政の責任と言われている。(一次救急を行えば)赤字になるからこそ行政が責任を持たないといけない。一般の病院で、赤字を覚悟して(一次救急を)行おうと思っても出来ない。だから、どこの市町村も行政が病院に対して補助金を支出して(一次救</p>

	急を) 行っている。それから国の補助金もあるので、市が単独で支出する金額については、今までと大きく変わらないということを行っている。
座長	その他、意見があればお願いしたい。 (意見が無いということで) よろしいか。
	「はい」との声
座長	5回にわたって懇話会を開催させていただいた。医療センターの施設整備について、皆様方から幅広く、いろいろな立場からの意見をいただいた。今日は、西都市から基本構想の素案を提示してもらった。改めて本日の意見も踏まえたうえでということで、これまでの懇話会の内容を(基本構想の素案に)ある程度反映させていただいているということでよろしいか。
	「はい」との声
座長	委員の皆さまの協力をもって、懇話会の全てを終了することができた。これをもって、私も座長としての任を解かしていただきたいと思う。これまでご協力ありがとうございました。

4 閉会